

越教組ニュース

越谷市教職員組合
ホームページ



越教組・埼玉高教・県職で構成する地公労（埼玉県地方公務員労働組合共闘会議）は、賃金・労働条件等に関する対県当局との第三回交渉を行いました。県当局は、第二回までの交渉を踏まえ一定程度の改善案を提案してきました。しかし、改善案は今回の一時金引き上げ額に見合う改善には到底及ぶものではなく、地公労は更なる改善を求めました。

埼玉県人事委員会勧告・意見について

月例給・一時金ともに引き上げ勧告でした。しかし改定額は、この間の物価高騰には及ばず、実質賃金は連続のマイナスです。会計年度任用職員の一時的に、勤勉手当が支給されることになりませんが、人事評価の反映について言及していることは問題です。

人事管理に関する報告では、DX（デジタルによる変革）の更なる推進に言及しています。DXで長時間労働が改善されるという主張には、疑問が残ります。ただちに行うべきことは人員増です。教職員の定数増と定数内臨任を無くして正規教職員を充てる必要があります。一方、これまでより一歩進んだ意見も出されています。ワークライフバランスやメンタルヘルス対策、ハラスメント対策については、この間の人事委員会交渉のとりくみ

労働条件に一定の改善 更に交渉を継続

<本年の給与改定>

(1) 月例給

平均 0.94%引上げ

初任給をはじめ若年層に重点を置きつつ、中高年齢層も含めて引上げ

(2) 特別給

0.10月引上げ（4.40月→4.50月）

民間の特別給の年間支給割合に見合うよう、職員の年間支給月数を0.10月分引上げ

再任用は0.05月の引き上げ

10月1日現在

小学校で4名
中学校で2名
代員が見つからず来ていない!

やはり先生がいらない!

越谷市は県下全自治体の教員の未配置・未補充調査を行った。それによれば、越谷市の10月1日現在の未補充は、小学校で4名、中学校で2名とのことだ。4月1日現在では、小中とも0で、新採用者の大量採用



により、私たちの主張が表現に盛り込まれた。現在、人事委員会勧告を受け、その取り扱いをめぐる賃金確定交渉が続いています。知事・教育長宛の賃金確定署名も始まっています。組合員のみなさん、地公労交渉・埼教連交渉への参加をお願いします。

越谷市の給食・給食費はどうなるの?

不自然だった徴収金

越谷市の学校給食費は昭和40年代から「公会計」であったと聞いています。「公会計」とは自治体の歳入に繰り入れられて執行される会計の事で「私会計」と相対するものです。「公会計」であれば自治体が扱うのが当然とされていますが、越谷市では徴収に関して

は学校現場が扱っていて不自然な形のままです。この事務に関して、各学校の教職員とくに学校事務職員が並々ならぬ努力を積み重ねてほぼ100%近い徴収を維持してきました。

保護者から書面で届け出てもらうことになりました。（これは今年度より実施）このようにデリケートなケースなどの変更点がたくさんあり、さらはまだ決まっていらない事項もあります。これからどうなっていくのか不安は尽きません。

給食無償は時代の流れ

学校給食は、みんなが同じものを食べ（アレレギョー、食文化の違いは除く）選択の余地がありません。また食育など教育活動の一環でもあります。子どもたちはもとより保護者も安心して学校に通えるよう「給食費の無償化」は喫緊の課題です。全国の多くの自治体で「給食費の無償化」が広がっています。越谷市でも是非「無償化」への道へ歩みをはじめてほしいものです。

来年度から市の徴収に徴収・管理を越谷市が実施することになりました。10月に周知文書が出され、保護者や教職員の口座登録などの事務手続きが進んでいます。口座

と産育休者の先読み加配で、胸をなでおろしていたが、やはり年度途中の代替は見つからないままだ。東京都の来年度の教員採用試験受験倍率が11倍だと聞く。ここまで避けられているのに、なんら有効な対策を打ち出せない政治。教育をないがしろにしてきた政治の責

任はきわめて重たい。なお、県全体では小210名、中51名が未配置・未補充（63分の39自治体の回答）

